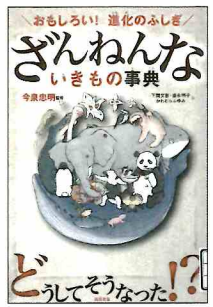


図書委員のすすめ本

『さんねんないきもの事典』

今泉忠明／監修



『さんねんないきもの事典』は、ただの図鑑ではありません。登場するのは、驚くべき能力を持つ生き物ではなく、「どうしてそうなった!？」とツツコミたくなる「さんねん」な特徴を持つ生き物たち。なんと122種類も紹介されています。「一生懸命なのに惜しい」そんな姿に思わず笑い、驚き、同時に進化のふしぎを感じられる一冊です。監修は国立科学博物館で哺乳類を研究された今泉忠明先生。章ごとに「さんねんな体」「さんねんな生き方」などのテーマに分かれ、どこからでも読めるのが魅力です。さらにプロフィール欄では生息地や大きさなどが整理され、生き物の知識が自然と身に付きます。

ユーモラスなイラストも豊富で、生き物たちの個性がより生き生きと伝わってきます。楽しく学べて

子どもから大人まで夢中になれる人気シリーズ、ぜひ図書室で手に取り、あなたのお気に入りの「さんねん」ないきものを見つけてください!

(31 HR 仲村心那)

『人魚の眠る家』

東野圭吾／著



「答えて下さい。娘を殺したのは、私でしょうか。」

瑞穂という少女は、ある日プールで溺れ、脳死状態となってしまふ。彼女の両親は一度、臓器提供を決意したが、反射で彼女の手が動いているのを見て、延命を決意。科学技術さえも用いて娘を生かす母・薫子の狂気ともいえる愛は多くの人を巻き込んでいく。

誰かが間違っている訳ではなく、悪人がいるわけでもない、人それぞれ正しい愛の形が違う話だと痛感させられる。また、両親は娘の脳死を受け入れられず、科学技術を駆使して娘を生かそうとするが、周りの人たちは疎まれ、父・和昌は、終盤には娘の死を受け入れようとしていくが、薫子は誰に

何と言われようとも娘を「生きている」者として扱う。二人の愛は形は異なるが、薫子の方は狂気がありつつも最後まで変わらなず、涙を誘う。

両親の最終的な判断は？瑞穂は一体どうなるのか？

(33 HR 木ノ内彩香)

『夜空に泳ぐ
チヨコレートグラミー』

町田そのこ／著



それぞれに消えない傷、忘れられない人、孤独や不安、生きていくことの苦しさを抱えながらも、耐えて覚悟を持ち、懸命に生きていく彼女を描いた5編の連作短編集です。

一話目「カメルーンの青い魚」は、著者のデビュー作でありながら、引き込まれる心理描写や繊細かつ感情を揺さぶられる文章が綴られています。すり鉢状の小さな街、タイトルや場面ごとに出てくる魚たちなど様々な場面とリンクするこの短編集は、読み深めていくうちに衝撃と愛しさが静かに胸に響きます。

図書委員会活動紹介

どう生きていくのか、なにが心の拠り所となっていくのか、不確かで曖昧な人生にわたしたちは僅かでも共感し、彼女たちの生きる姿に、ある種の希望のようなものを見つけ出すことができるのです。

そして、読んだ人の背中をそつと押して、勇気を与えてくれるのです。

(14 HR 村上友香)

図書委員会では、日頃から当番制で図書館の本の貸し出しを受け付け、管理しています。ポップの制作などにより本の魅力も伝えています。また、今回のように図書館だよりの発行もしており、より多くの方に本を読んでもらうために取り組みをしています。そして大きなイベントとしてビブリオバトルの司会・進行を務めています。ビブリオバトルを機に自分のお気に入りの本を振り返ったりみんなのおすすめの本を聞いたりして本の良さを感じてほしいと思います。ビブリオバトルの運営をしています。みなさんが本にふれるきっかけとなっていたら嬉しいです。快適に過ごせるような図書館を保ち続けられるように、図書委員会は頑張っていますのでぜひ図書館に寄ってみてください。

図書館だより

第八十八号
令和七年
十月三十一日
富士宮西高
図書委員会



本当の自分に正直で
飾らないあたしで良いのだから
教えてくれたね。

あおぞら
椎名林檎

イラスト 34HR 真野 璃子

読書の世界

『扉の向こうに』

校長 鈴木 邦浩

今回は「古典文法の復習」から過去の助動詞、その二つといったら（ ）と（ ）。（ ）いずれも基本形（終止形）で答えなさい。更に、両者のちがいは？説明してごらん。

人の経験には「2色（ふたいろ）」あり。1に「直接経験」、2に「間接経験」。経験の幅を広げる、という意味で「間接経験」の果たす役割は極めて大きいと言われます。

たとえば「人の思考」。君らも私も、毎日飽きることなく、いろいろなことを考えていますね。実に多種多様な観点をもち、飽きることなく考えているのです。これは、すごい！実にすごいことなのです。

当たり前のことだけれども、思考、思索には「材料」が欠かせません。そのときの「材料」はどこで、どうやって得ているのだろうか？

人の（生涯における）「直接経

験」の数は、それだけでも数えきれないほどに感じられますが、「間接経験」、つまり自分以外の他者の経験を「追体験」すること、はるかに多くの経験を重ねることができるのです。

活字を通して作中人物に自分を重ねてみたり、主人公の冒険譚を、彼のすぐ隣にいるかのように共有してみたり。泣いたり、笑ったり、怒ったり、嘆いたり…。

さまざまな形で我々は、作品世界を追体験、覗かせていただくことができます。実に興味深いですね。

（小説でもドラマでも、この頃はうんと、涙もろくなつた私です。泣けて泣けて、仕方がない。素直に感情表現ができるようになったから、でしょうか？）

例えば読書という営みを重ねた先に、細やかな感性を体得できたとき、君らは「ドラえもん」の「のび太くん」のように、人の喜びや悲しみを、まるで自分のことのように感じることができるようになる、そんな心の優しさを備えているのかもしれない。

読書の世界。早速、一冊手に取って、中を覗いてみてください。

令和7年度ビブリオバトルチャンプ本決定戦 学年代表インタビュー

6月6日紫翠祭文化の部ステージ発表の中で、令和7年度3年生ビブリオバトルチャンプ本決定戦が開催されました。全校生徒が注目する中、クラス代表の4人は堂々とした発表を披露してくれました。そんな中見事チャンプ本に輝いた32HR代表の古屋樹希さんに今回のビブリオバトルについての感想を聞いてみました。

●3年チャンプ 32HR 古屋樹希さん 『地球星人』 村田沙耶香／著



Q この本を選んだ理由を教えてください。

A 最後のビブリオバトルなので、自分の一番好きな本を紹介したかったからです。

Q この本をどんな人に読んで欲しいですか？

A 自分が周り比べて変わって

いると感じたり、「人すぎる」と感じたことがある人や、強烈な本を探している人。

Q この本を読んで得たものは何ですか？

A 本の面白さに改めて気づくことができました。また、自分がこの世界に対して持っていない考えに触れ、物事をより面白く感じるようになりました。

— ありがとうございます。

3年クラス代表と紹介本

今回3年生決勝進出者の発表では、どの本も魅力的に紹介され、それぞれの発表者にたくさん票が入りました。そこで他の代表者の皆さんにも紹介した本のおすめポイント聞いてみました。

31HR 梶山稀花 『嫌われる勇気』 岸見一郎、古賀史健／著

〽ここがポイント！
「こころの持ち方に変化をもたらす、新たな考えを提示してくれるところ」です。この本で自分を見つめ直すきっかけが見つかると思います。特にリーダーなど責任を伴

う立ち位置にいる方にお勧めしたいです。

33HR 柏熊憲史 『睡眠の超基本』 柳沢正史／著

〽ここがポイント！
頭に残る学習をするための睡眠方法について書かれているところ。受験生にはおすすめののでぜひ読んでみてください。

34HR 佐藤崇央 『自分の中に毒を持って』 岡本太郎／著

〽ここがポイント！
どのページにも勇気をくれる言葉があるところ。この本を読むことでやる気が出て、生活の糧になるような一冊です。

8月4日、夏休み中の登校日に、1・2年生の学年ビブリオバトルチャンプ本決定戦が行われました。図書委員会ではチャンプとなった2人にインタビューを行いました。

●2年チャンプ 21HR 四條史也さん 『夢をかなえるゾウ3』 水野敬也／著



Q この本を紹介しようと思った

西高百選

79 石川 壮 (理科)



『走ることにについて語る
ときに僕の語ること』 村上春樹／著

「ワイエットに成功したはずのお腹はもつすでにまんまるだ。不思議で、少しおかしくて、ちよつと怖い。これまで様々な方法に挑戦してきた。炭水化物を抜くために、韓国の専門家に頼ったこともあれば、ジムに通って、近所のおばちゃんと仲良くなつたこともある。始めることとこんなやる性格なので、平らなお腹までは頑張れる。けれど、気づけば、また元通り。しかも、以前より大きくなっている気がする。だから次こそは、と慎重に取り組む。その繰り返しを十五年も続けてきた。維持できない自分にかつかりする気持ちは消え、今では、まんまるお腹も愛おしい。趣味はワイエット、特技はリハウンド。インスタグラムの自己紹介にそう書いている。村上春樹さんが「走ることを通じて続ける意味を語ったように、私にとつての『走る』とは、きつとワイエットなのだろう。」

きつかけは？

A とてもためになる内容で、キャラクターも魅力的だったので、今まで読んだ本の中で一番ハマったからです。

Q この本の魅力を教えてください。

A 笑えて、ためになって、感動できる最強の本です。

この本を読んでガネーシャが好きになりました。

Q 決勝直前に発表者が自分に決まった時の心情は？

A 本も原稿もない状態だったのでとても緊張しました。でも発表をしているときは楽しかったです。

Q 優勝した時の気持ちを教えてください。

A この本の魅力を多くの人に伝えられてよかったです。少しでも夢を叶えるきっかけになれば嬉しいです。

Q 最後に一言メッセージをお願いします。

A 夢を叶えてください！
— ありがとうございます。

2年クラス代表と紹介本

そのほか、2年生決勝進出者と紹介本は次の通りです。

22HR 小山奈累心さん 『連続殺人鬼カエル男』 中山七里／著

23HR 水上遥斗さん
『スイッチを押すとき』 山田悠介／著

24HR 佐藤克哉さん 『死にたがりの君に贈る物語』 綾崎隼／著

●1年チャンプ 13HR 佐野蒼介さん 『告白』 湊かなえ／著



Q この本との出会いはどんな感じでしたか？

A この本との出会いは、ビブリオの本を探しに本屋へ行ったときに、いくつかの本と迷ったんですが、内容を見て、気に入ったのがこの本だったからです。

Q この本の魅力について教えてください。

A この本の魅力は発表の時も言ったかもしれないのですが、この本は第六章くらいあるのですが、その時々で視点が変わり、前のところからわからなかった心の描写との伏線回収などがわかってよかったです。

Q プレゼンの時に意識したこと

は何ですか？

A それは、相手の心を動かそうとしたり、問いかけ、相手の驚くようなことを言ったりして、相手の感情を引き出すようにして、こ

の本を読みみたいと思わせるようにしました。

Q 最後の質問です。学年チャンプになった感想をどうぞ。

A 第一声は「やった〜！」でした。投票してくれた皆に感謝をしつつ、こんな俺でよかったのかな？と思いました。

— ありがとうございます。

1年クラス代表と紹介本

そのほか、1年生決勝進出者と紹介本は次の通りです。

11HR 望月美花さん 『モモ』 ミヒヤエル・エンデ／著

12HR 石川優雅さん 『方舟』 太木春央／著

14HR 村上飛斗さん 『残像に口紅を』 筒井康隆／著

第11回静岡岡高等学校ビブリオバトルに四條史也さんと佐野蒼介さんが出場！

9月20日(土) 常葉大学静岡草薙キャンパスで「全国高等学校ビブリオバトル」の県大会が開催されました。本校からは1・2年でチャンプ本に輝いた四條さんと佐野さんの2人が、代表として出場しました。

各校の代表36人が参加した大会で、惜しくも決勝進出はかないませんでしたが、自分のおすすめ本を堂々と紹介してくれました。

80 関野陽生 (英語)



『1%の努力』 ひろゆき／著

「サボる才能があるかどうか」という問いが本書の中で出てくる。それは、ただ怠けるという意味ではなく、「2時間でやるべきことを1時間で終わらせ、1時間余らせること」だという。人生を幸福にするために。

この本を手にとったのは、前任校のおすすり図書の本棚に置いてあったからだ。パラパラと読んでいるうちにハマってしまった。

私には人より一層努力したと誇れることはないが、なんとか頑張ってきけた人生だから、たちが悪い。

私は自己啓発なんかには毛頭興味もなかったが、より良く生きたいと思うことはあった。そんな時に読んでほしい1冊だ。

何が言いたいのかというと、他者と比べて落ち込むのではなく、自分の頑張りや認めてあげてほしいということだ。目的をもって、努力してきた自分を。結果が全てではないから、過程を楽しんでほしい。